

(参考資料 3)

保育士・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士
における教授内容

保育士における教授内容

指定保育士養成施設における教授内容

科目名	教授内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
保育原理（講義・2単位）	<ol style="list-style-type: none"> 1．保育の意義について理解する。 2．保育所保育指針における保育の基本について理解する。 3．保育の内容と方法の基本について理解する。 4．保育の思想と歴史の変遷について理解する。 5．保育の現状と課題について考察する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1．保育の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の理念と概念 (2) 児童の最善の利益を考慮した保育 (3) 保護者との協働 (4) 保育の社会的意義 (5) 保育所保育と家庭的保育 (6) 保育所保育指針の制度的位置づけ 2．保育所保育指針における保育の基本 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育の一体性 (2) 環境を通して行う保育 (3) 発達過程に応じた保育 (4) 保護者との緊密な連携 (5) 倫理観に裏付けられた保育士の専門性 3．保育の目標と方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う (2) 生活と遊びを通して総合的に行う保育 (3) 保育における個と集団への配慮 (4) 計画・実践・記録・評価・改善の過程の循環 4．保育の思想と歴史の変遷

		<ul style="list-style-type: none"> (1) 諸外国の保育の思想と歴史 (2) 日本の保育の思想と歴史 5 . 保育の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> (1) 諸外国の保育の現状と課題 (2) 日本の保育の現状と課題
教育原理 (講義・2 単位)	<ul style="list-style-type: none"> 1 . 教育の意義、目的及び児童福祉等とのかわりについて理解する。 2 . 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3 . 教育の制度について理解する。 4 . 教育実践のさまざまな取り組みについて理解する 5 . 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 . 教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性 <ul style="list-style-type: none"> (1) 教育の意義 (2) 教育の目的 (3) 教育と児童福祉の関連性 (4) 人間形成と家庭・地域・社会等との関連性 2 . 教育の思想と歴史的変遷 <ul style="list-style-type: none"> (1) 諸外国の教育思想と歴史 (2) 日本の教育思想と歴史 (3) 児童観と教育観の変遷 3 . 教育の制度 <ul style="list-style-type: none"> (1) 教育制度の基礎 (2) 教育法規・教育行政の基礎 (3) 諸外国の教育制度 4 . 教育の実践 <ul style="list-style-type: none"> (1) 教育実践の基礎理論 - 内容、方法、計画と評価 - (2) 教育実践の多様な取り組み

		<p>5．生涯学習社会における教育の現状と課題</p> <p>(1) 生涯学習社会と教育</p> <p>(2) 現代の教育課題</p>
<p>児童家庭福祉(講義・2単位)</p>	<p>1．現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</p> <p>2．児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。</p> <p>3．児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。</p> <p>4．児童家庭福祉の現状と課題について理解する。</p> <p>5．児童家庭福祉の動向と展望について理解する。</p>	<p>1．現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷</p> <p>(1) 児童家庭福祉の理念と概念</p> <p>(2) 児童家庭福祉の歴史の変遷</p> <p>(3) 現代社会と児童家庭福祉</p> <p>2．児童家庭福祉と保育</p> <p>(1) 児童家庭福祉の一分野としての保育</p> <p>(2) 児童の人権擁護と児童家庭福祉</p> <p>3．児童家庭福祉の制度と実施体系</p> <p>(1) 児童家庭福祉の制度と法体系</p> <p>(2) 児童家庭福祉行財政と実施機関</p> <p>(3) 児童福祉施設等</p> <p>(4) 児童家庭福祉の専門職・実施者</p> <p>4．児童家庭福祉の現状と課題</p> <p>(1) 少子化と子育て支援サービス</p> <p>(2) 母子保健と児童の健全育成</p> <p>(3) 多様な保育ニーズへの対応</p> <p>(4) 児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス</p> <p>(5) 社会的養護</p> <p>(6) 障害のある児童への対応</p> <p>(7) 少年非行等への対応</p>

		<p>5. 児童家庭福祉の動向と展望</p> <p>(1) 次世代育成支援と児童家庭福祉の推進</p> <p>(2) 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク</p> <p>(3) 諸外国の動向</p>
社会福祉（講義・2単位）	<p>1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</p> <p>2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。</p> <p>3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。</p> <p>4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。</p> <p>5. 社会福祉の動向と課題について理解する。</p>	<p>1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷</p> <p>(1) 社会福祉の理念と概念</p> <p>(2) 社会福祉の歴史の変遷</p> <p>2. 社会福祉と児童家庭福祉</p> <p>(1) 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉</p> <p>(2) 児童の人権擁護と社会福祉</p> <p>(3) 家庭支援と社会福祉</p> <p>3. 社会福祉の制度と実施体系</p> <p>(1) 社会福祉の制度と法体系</p> <p>(2) 社会福祉行財政と実施機関</p> <p>(3) 社会福祉施設等</p> <p>(4) 社会福祉の専門職・実施者</p> <p>(5) 社会保障及び関連制度の概要</p> <p>4. 社会福祉における相談援助</p> <p>(1) 相談援助の意義と原則</p> <p>(2) 相談援助の方法と技術</p> <p>5. 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み</p> <p>(1) 情報提供と第三者評価</p>

		<ul style="list-style-type: none"> (2) 利用者の権利擁護と苦情解決 6 . 社会福祉の動向と課題 <ul style="list-style-type: none"> (1) 少子高齢化社会への対応 (2) 在宅福祉・地域福祉の推進 (3) 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク (4) 諸外国の動向
相談援助（演習・1単位）	<ul style="list-style-type: none"> 1 . 相談援助の概要について理解する。 2 . 相談援助の方法と技術について理解する。 3 . 相談援助の具体的展開について理解する。 4 . 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 . 相談援助の概要 <ul style="list-style-type: none"> (1) 相談援助の理論 (2) 相談援助の意義 (3) 相談援助の機能 (4) 相談援助とソーシャルワーク (5) 保育とソーシャルワーク 2 . 相談援助の方法と技術 <ul style="list-style-type: none"> (1) 相談援助の対象 (2) 相談援助の過程 (3) 相談援助の技術・アプローチ 3 . 相談援助の具体的展開 <ul style="list-style-type: none"> (1) 計画・記録・評価 (2) 関係機関との協働 (3) 多様な専門職との連携 (4) 社会資源の活用、調整、開発 4 . 事例分析

		<ul style="list-style-type: none"> (1) 虐待の予防と対応等の事例分析 (2) 障害のある子どもとその保護者への支援等の事例分析 (3) ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析
社会的養護（講義・2単位）	<ul style="list-style-type: none"> 1．現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2．社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3．社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4．社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5．社会的養護の現状と課題について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1．現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 <ul style="list-style-type: none"> (1) 社会的養護の理念と概念 (2) 社会的養護の歴史の変遷 2．社会的養護と児童家庭福祉 <ul style="list-style-type: none"> (1) 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 (2) 児童の権利擁護と社会的養護 3．社会的養護の制度と実施体系 <ul style="list-style-type: none"> (1) 社会的養護の制度と法体系 (2) 社会的養護の仕組みと実施体系 (3) 家庭的養護と施設養護 (4) 社会的養護の専門職・実施者 4．施設養護の実際 <ul style="list-style-type: none"> (1) 施設養護の基本原則 (2) 施設養護の実際 - 日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等 - (3) 施設養護とソーシャルワーク 5．社会的養護の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> (1) 施設等の運営管理

		<ul style="list-style-type: none"> (2) 倫理の確立 (3) 被措置児童等の虐待防止 (4) 社会的養護と地域福祉
保育者論 (講義・2 単位)	<ul style="list-style-type: none"> 1 . 保育者の役割と倫理について理解する。 2 . 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3 . 保育士の専門性について考察し、理解する。 4 . 保育者の協働について理解する。 5 . 保育者の専門職的成長について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 . 保育者の役割と倫理 <ul style="list-style-type: none"> (1) 役割 (2) 倫理 2 . 保育士の制度的位置づけ <ul style="list-style-type: none"> (1) 資格 (2) 要件 (3) 責務 3 . 保育士の専門性 <ul style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育 (2) 保育士の資質・能力 (3) 知識・技術及び判断 (4) 保育の省察 (5) 保育課程による保育の展開と自己評価 4 . 保育者の協働 <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育と保護者支援にかかわる協働 (2) 専門職間及び専門機関との連携 (3) 保護者及び地域社会との協働 (4) 家庭的保育者等との連携 5 . 保育者の専門職的成長 <ul style="list-style-type: none"> (1) 専門性の発達

		(2) 生涯発達とキャリア形成
保育の心理学 (講義・2単位)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。 2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。 3. 子どもが人との相互的かかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。 4. 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 保育と心理学 <ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達を理解することの意義 (2) 保育実践の評価と心理学 (3) 発達観、子ども観と保育観 2. 子どもの発達理解 <ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と環境 (2) 感情の発達と自我 (3) 身体的機能と運動機能の発達 (4) 知覚と認知の発達 (5) 言葉の発達と社会性 3. 人との相互的かかわりと子どもの発達 <ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的信頼感の獲得 (2) 他者とのかかわり (3) 社会的相互作用 4. 生涯発達と初期経験の重要性 <ul style="list-style-type: none"> (1) 生涯発達と発達援助 (2) 胎児期及び新生児期の発達 (3) 乳幼児期の発達 (4) 学童期から青年期の発達 (5) 成人期、老年期の発達
保育の心理学 (演習・1単位)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達と保育実践 <ul style="list-style-type: none"> (1) 子ども理解における発達の把握

	<p>2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。</p> <p>3. 保育における発達援助について学ぶ。</p>	<p>(2) 個人差や発達過程に応じた保育</p> <p>(3) 身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用</p> <p>(4) 環境としての保育者と子どもの発達</p> <p>(5) 子ども相互のかかわりと関係作り</p> <p>(6) 自己主張と自己統制</p> <p>(7) 子ども集団と保育の環境</p> <p>2. 生活や遊びを通じた学びの過程</p> <p>(1) 子どもの生活と学び</p> <p>(2) 子どもの遊びと学び</p> <p>(3) 生涯にわたる生きる力の基礎を培う</p> <p>3. 保育における発達援助</p> <p>(1) 基本的な生活習慣の獲得と発達援助</p> <p>(2) 自己の主体性の形成と発達援助</p> <p>(3) 発達の課題に応じた援助やかかわり</p> <p>(4) 発達の連続性と就学への支援</p> <p>(5) 発達援助における協働</p> <p>(6) 現代社会における子どもの発達と保育の課題</p>
<p>子どもの保健 (講義・4単位)</p>	<p>1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。</p> <p>2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。</p> <p>3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。</p>	<p>1. 子どもの健康と保健の意義</p> <p>(1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的</p> <p>(2) 健康の概念と健康指標</p> <p>(3) 地域における保健活動と児童虐待防止</p> <p>2. 子どもの発育・発達と保健</p>

	<p>4. 子どもの精神保健とその課題等について理解する。</p> <p>5. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。</p> <p>6. 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。</p>	<p>(1) 生物としてのヒトの成り立ち</p> <p>(2) 身体発育と保健</p> <p>(3) 生理機能の発達と保健</p> <p>(4) 運動機能の発達と保健</p> <p>(5) 精神機能の発達と保健</p> <p>3. 子どもの疾病と保育</p> <p>(1) 子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴</p> <p>(2) 子どもの疾病の予防と適切な対応</p> <p>4. 子どもの精神保健</p> <p>(1) 子どもの生活環境と精神保健</p> <p>(2) 子どもの心の健康とその課題</p> <p>5. 環境及び衛生管理並びに安全管理</p> <p>(1) 保育環境整備と保健</p> <p>(2) 保育現場における衛生管理</p> <p>(3) 保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理</p> <p>6. 健康及び安全の実施体制</p> <p>(1) 職員間の連携と組織的取組</p> <p>(2) 母子保健対策と保育</p> <p>(3) 家庭・専門機関・地域との連携</p>
<p>子どもの保健 (演習・1単位)</p>	<p>1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。</p> <p>2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健</p>	<p>1. 保健活動の計画及び評価</p> <p>(1) 保健計画の作成と活用</p> <p>(2) 保健活動の記録と自己評価</p>

	<p>活動や環境を考える。</p> <p>3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。</p> <p>4. 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。</p> <p>5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。</p>	<p>(3) 子どもの保健に係る個別対応と子ども集団全体の健康と安全・衛生管理</p> <p>2. 子どもの保健と環境</p> <p>(1) 保健における養護と教育の一体性</p> <p>(2) 子どもの健康増進と保育の環境</p> <p>(3) 子どもの生活習慣と心身の健康</p> <p>(4) 子どもの発達援助と保健活動</p> <p>3. 子どもの疾病と適切な対応</p> <p>(1) 体調不良や傷害が発生した場合の対応</p> <p>(2) 感染症の予防と対策</p> <p>(3) 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー性疾患等)</p> <p>(4) 乳児への適切な対応</p> <p>(5) 障害のある子どもへの適切な対応</p> <p>4. 事故防止及び健康安全管理</p> <p>(1) 事故防止及び健康安全管理に関する組織的取組</p> <p>(2) 救急処置及び救急蘇生法の習得</p> <p>(3) 保育における看護と応急処置</p> <p>(4) 災害への備えと危機管理</p> <p>5. 心とからだの健康問題と地域保健活動</p> <p>(1) 子どもの養育環境と心の健康問題</p> <p>(2) 心とからだの健康づくりと地域保健活動</p>
<p>子どもの食と栄養(演習・2)</p>	<p>1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関</p>	<p>1. 子どもの健康と食生活の意義</p>

<p>単位)</p>	<p>する基本的知識を学ぶ。</p> <p>2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。</p> <p>3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。</p> <p>4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。</p> <p>5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</p>	<p>(1) 子どもの心身の健康と食生活</p> <p>(2) 子どもの食生活の現状と課題</p> <p>2. 栄養に関する基本的知識</p> <p>(1) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能</p> <p>(2) 食事摂取基準と献立作成・調理の基本</p> <p>3. 子どもの発育・発達と食生活</p> <p>(1) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活</p> <p>(2) 幼児期の心身の発達と食生活</p> <p>(3) 学童期の心身の発達と食生活</p> <p>(4) 生涯発達と食生活</p> <p>4. 食育の基本と内容</p> <p>(1) 食育における養護と教育の一体性</p> <p>(2) 食育の内容と計画及び評価</p> <p>(3) 食育のための環境</p> <p>(4) 地域の関係機関や職員間の連携</p> <p>(5) 食生活指導及び食を通した保護者への支援</p> <p>5. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養</p> <p>(1) 家庭における食事と栄養</p> <p>(2) 児童福祉施設における食事と栄養</p> <p>6. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養</p> <p>(1) 疾病及び体調不良の子どもへの対応</p> <p>(2) 食物アレルギーのある子どもへの対応</p> <p>(3) 障害のある子どもへの対応</p>
------------	--	---

<p>家庭支援論（講義・2単位）</p>	<p>1．家庭の意義とその機能について理解する。 2．子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 3．子育て家庭の支援体制について理解する。 4．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。</p>	<p>1．家庭支援の意義と役割 （1）家庭の意義と機能 （2）家庭支援の必要性 （3）保育士等が行う家庭支援の原理 2．家庭生活を取り巻く社会的状況 （1）現代の家庭における人間関係 （2）地域社会の変容と家庭支援 （3）男女共同参画社会とワークライフバランス 3．子育て家庭の支援体制 （1）子育て家庭の福祉を図るための社会資源 （2）子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 4．多様な支援の展開と関係機関との連携 （1）子育て支援サービスの概要 （2）保育所入所児童の家庭への支援 （3）地域の子育て家庭への支援 （4）要保護児童及びその家庭に対する支援 （5）子育て支援における関係機関との連携 （6）子育て支援サービスの課題</p>
<p>保育課程論（講義・2単位）</p>	<p>1．保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。 2．保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 3．計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその</p>	<p>1．保育の計画と評価の基本 （1）カリキュラムの基礎理論 （2）保育所における保育の計画と評価の意義 （3）保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義</p>

	<p>全体構造を動的にとらえ、理解する。</p>	<p>(4) 計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上</p> <p>2. 保育所における保育の計画</p> <p>(1) 保育所保育指針と幼稚園教育要領</p> <p>(2) 保育課程と指導計画</p> <p>(3) 保育課程の編成</p> <p>(4) 指導計画(長期的・短期的)の作成と作成上の留意事項</p> <p>3. 保育の計画の作成と展開</p> <p>(1) 保育課程の編成と展開</p> <p>(2) 指導計画の実際の作成と展開</p> <p>4. 保育所における保育の評価</p> <p>(1) 保育の省察及び記録</p> <p>(2) 保育士及び保育所の自己評価</p> <p>(3) 保育の計画の再編成</p> <p>(4) 生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録</p>
<p>保育内容総論(演習・1単位)</p>	<p>1. 保育所保育指針における「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。</p> <p>2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について理解する。</p>	<p>1. 保育の基本と保育内容</p> <p>(1) 保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解</p> <p>(2) 保育の全体構造と保育内容</p> <p>2. 保育内容の歴史的変遷</p> <p>3. 保育内容と子ども理解</p>

	<p>3 . 子どもや子ども集団の発達の特長や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶ。</p> <p>4 . 子どもの生活全体を通して、養護（生命の保持、情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。</p> <p>5 . 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。</p>	<p>(1) 子どもの発達の特長と保育内容</p> <p>(2) 個と集団の発達と保育内容</p> <p>(3) 保育における観察</p> <p>(4) 保育における記録</p> <p>4 . 保育の基本を踏まえた保育内容の展開</p> <p>(1) 養護と教育が一体的に展開する保育</p> <p>(2) 環境を通して行う保育</p> <p>(3) 遊びによる総合的な保育</p> <p>(4) 生活や発達の連続性に考慮した保育</p> <p>(5) 家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育</p> <p>5 . 保育の多様な展開</p> <p>(1) 乳児保育</p> <p>(2) 長時間の保育</p> <p>(3) 特別な支援を必要とする子どもの保育</p> <p>(4) 多文化共生の保育</p>
<p>保育内容演習(演習・5 単位)</p>	<p>1 . 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。</p> <p>2 . 子どもの発達を「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。</p>	<p>以下の観点から、総合的に保育内容を理解する。</p> <p>1 . 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助やかかわりである「養護」</p> <p>子どもの生理的欲求を満たし、子どもが健康、安全、かつ快適に過ごすための生活援助</p> <p>子どもを受容し、子どもが安心感と安定感をもって過ごすための援助やかかわり</p> <p>2 . 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展</p>

		<p>開されるための発達の援助である「教育（健康、人間関係、環境、言葉及び表現の5領域）」</p> <p>健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う「健康」の領域。</p> <p>他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う「人間関係」の領域。</p> <p>周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う「環境」の領域。</p> <p>経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う「言葉」の領域。</p> <p>感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする「表現」の領域。</p>
乳児保育（演習・2単位）	<ol style="list-style-type: none"> 1．乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。 2．保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3．3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1．乳児保育の理念と役割 <ul style="list-style-type: none"> (1) 乳児保育の理念と歴史的変遷 (2) 乳児保育の役割と機能 2．乳児保育の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育所における乳児保育 (2) 乳児院における乳児保育

	<p>る。</p> <p>4 . 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。</p> <p>5 . 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。</p>	<p>(3) 家庭的保育等における乳児保育</p> <p>(4) 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場</p> <p>3 . 3歳未満児の発達と保育内容</p> <p>(1) 乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり</p> <p>(2) 6か月未満児の発達と保育内容</p> <p>(3) 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容</p> <p>(4) 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容</p> <p>(5) 2歳児の発達と保育内容</p> <p>4 . 乳児保育の実際</p> <p>(1) 保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価</p> <p>(2) 個々の発達を促す生活と遊びの環境</p> <p>(3) 職員間の協働</p> <p>5 . 乳児保育における連携</p> <p>(1) 保護者とのパートナーシップ</p> <p>(2) 保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携</p>
<p>障害児保育（演習・2単位）</p>	<p>1 . 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。</p> <p>2 . 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。</p> <p>3 . 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援</p>	<p>1 . 障害児保育を支える理念</p> <p>(1) 「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷</p> <p>(2) 障害児保育の基本</p> <p>2 . 障害の理解と保育における発達の援助</p> <p>(1) 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等の理解と援</p>

	<p>及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。</p> <p>4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。</p> <p>5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。</p>	<p>助</p> <p>(2) 知的障害児の理解と援助</p> <p>(3) 発達障害児の理解と援助 (ADHD - 注意欠陥多動性障害、LD - 学習障害等)</p> <p>(4) 発達障害児の理解と援助 (PDD - 広汎性発達障害等)</p> <p>3. 障害児保育の実際</p> <p>(1) 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価</p> <p>(2) 個々の発達を促す生活や遊びの環境</p> <p>(3) 子ども同士のかかわりと育ち合い</p> <p>(4) 職員間の協働</p> <p>4. 家庭及び関係機関との連携</p> <p>(1) 保護者や家族に対する理解と支援</p> <p>(2) 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成</p> <p>(3) 小学校等との連携</p> <p>5. 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題</p> <p>(1) 保健・医療における現状と課題</p> <p>(2) 福祉・教育における現状と課題</p> <p>(3) 支援の場の広がりつつながり</p>
<p>社会的養護内容(演習・1単位)</p>	<p>1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。</p>	<p>1. 社会的養護における児童の権利擁護と保育士等の倫理及び責務</p>

	<p>2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。</p> <p>3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。</p> <p>4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。</p> <p>5. 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。</p>	<p>(1) 児童の権利擁護</p> <p>(2) 保育士等の倫理及び責務</p> <p>2. 社会的養護の実施体系</p> <p>(1) 施設養護の特性及び実際</p> <p>(2) 里親制度の特性及び実際</p> <p>3. 支援の計画と内容及び事例分析</p> <p>(1) 個別支援計画の作成</p> <p>(2) 日常生活支援に関する事例分析</p> <p>(3) 治療的支援に関する事例分析</p> <p>(4) 自立支援に関する事例分析</p> <p>(5) 記録及び自己評価</p> <p>4. 社会的養護にかかわる専門的技術</p> <p>(1) 保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用</p> <p>(2) ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用</p> <p>5. 今後の課題と展望</p> <p>(1) 施設の小規模化と地域とのかかわり</p> <p>(2) 社会的養護の課題と展望</p>
<p>保育相談支援(演習・1単位)</p>	<p>1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。</p> <p>2. 保護者支援の基本を理解する。</p> <p>3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。</p> <p>4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際に</p>	<p>1. 保育相談支援の意義</p> <p>(1) 保護者に対する保育相談支援の意義</p> <p>(2) 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援</p> <p>2. 保育相談支援の基本</p>

	<p>ついて理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもの最善の利益と福祉の重視 (2) 子どもの成長の喜びの共有 (3) 保護者の養育力の向上に資する支援 (4) 信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重 (5) 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力 <p>3 . 保育相談支援の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育に関する保護者に対する指導 (2) 保護者支援の内容 (3) 保護者支援の方法と技術 (4) 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス <p>4 . 児童福祉施設における保育相談支援</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育所における保育相談支援の実際 (2) 保育所における特別な対応を要する家庭への支援 (3) 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援 (4) 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援
<p>保育の表現技術（演習・4単位）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 . 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 2 . 身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 . 身体表現に関する知識や技術 (1) 子どもの発達と運動機能や身体表現に関する知識と技術 (2) 見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等

	<p>3 . 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。</p>	<p>る子どもの経験と保育の環境</p> <p>(3) 子どもの経験や様々な表現活動と身体表現とを結びつける遊びの展開</p> <p>2 . 音楽表現に関する知識や技術</p> <p>(1) 子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術</p> <p>(2) 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験と保育の環境</p> <p>(3) 子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開</p> <p>3 . 造形表現に関する知識や技術</p> <p>(1) 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術</p> <p>(2) 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境</p> <p>(3) 子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開</p> <p>4 . 言語表現等に関する知識や技術</p> <p>(1) 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術</p> <p>(2) 子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境</p> <p>(3) 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等を結びつける遊びの展開</p> <p>5 . 教材等の活用及び作成と保育の展開</p>
--	--	--

		<ul style="list-style-type: none"> (1) 様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と活用及び作成 (2) 子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成と保育の展開
<p>保育実習（実習・4単位： 保育所実習2単位・施設実習 2単位）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 <ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理

		<p>< 居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設の生活と一日の流れ (2) 施設の役割と機能 2. 子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助やかかわり 3. 養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもの心身の状態に応じた対応 (3) 子どもの活動と生活の環境 (4) 健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理
<p>保育実習指導 (演習・2単位)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の目的 (2) 実習の概要

	<p>プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</p> <p>4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。</p> <p>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p>	<p>2. 実習の内容と課題の明確化</p> <p>(1) 実習の内容</p> <p>(2) 実習の課題</p> <p>3. 実習に際しての留意事項</p> <p>(1) 子どもの人権と最善の利益の考慮</p> <p>(2) プライバシーの保護と守秘義務</p> <p>(3) 実習生としての心構え</p> <p>4. 実習の計画と記録</p> <p>(1) 実習における計画と実践</p> <p>(2) 実習における観察、記録及び評価</p> <p>5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化</p> <p>(1) 実習の総括と自己評価</p> <p>(2) 課題の明確化</p>
<p>保育実践演習(演習・2単位)</p>	<p>1. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。</p> <p>2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。</p> <p>3. 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。</p> <p>4. 必修科目(保育実践演習を除く。以下同じ。)及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。</p>	<p>「保育実践演習」は、次の 又は のいずれかを行うものとする。</p> <p>保育にかかわる課題の中から一以上のものに関する分析、考察、検討を行うとともに、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法等について学修する。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を取得する。</p> <p>必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識技能</p>

		<p>を修得したことを確認する。</p> <p>【参考例】</p> <p>について</p> <p>(課題)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 少子化への対応 2. 虐待及びそれに伴う世代間連鎖について 3. 長時間保育と子どもの発達について 4. 幼稚園・認定こども園・小学校との連携について <p>(方法)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマごとのディスカッション 2. 研究発表 <p>について</p> <p>(必要な知識技能を修得したことを確認するための方法・内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論 2. 保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等についてのグループ討論。ロールプレイング 3. 社会性、対人関係能力、児童理解等についてのグループ討論 4. 保育内容等の指導力についての講義・グループ討論 5. 資質能力の確認、まとめ
--	--	---

<p>保育実習（実習・2単位： 保育所実習）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となっていく保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化
<p>保育実習（実習・2単位：</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能につい 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能

<p>保育所以外の施設実習)</p>	<p>て実践を通して、理解を深める。</p> <p>2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。</p> <p>3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</p> <p>4. 保育士としての自己の課題を明確化する。</p>	<p>2. 施設における支援の実際</p> <p>(1) 受容し、共感する態度</p> <p>(2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解</p> <p>(3) 個別支援計画の作成と実践</p> <p>(4) 子どもの家族への支援と対応</p> <p>(5) 多様な専門職との連携</p> <p>(6) 地域社会との連携</p> <p>3. 保育士の多様な業務と職業倫理</p> <p>4. 保育士としての自己課題の明確化</p>
<p>保育実習指導 又は (演習・1単位)</p>	<p>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。</p> <p>2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。</p> <p>3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。</p> <p>4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</p> <p>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>	<p>1. 保育実習による総合的な学び</p> <p>(1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解</p> <p>(2) 子どもの保育と保護者支援</p> <p>2. 保育実践力の育成</p> <p>(1) 子どもの状態に応じた適切なかかわり</p> <p>(2) 保育の表現技術を生かした保育実践</p> <p>3. 計画と観察、記録、自己評価</p> <p>(1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践</p> <p>(2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善</p> <p>4. 保育士の専門性と職業倫理</p> <p>5. 事後指導における実習の総括と評価</p>

		(1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化
--	--	----------------------------------

社会福祉士における教授内容

社会福祉士養成施設における教授内容

科目名	教授内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
人体の構造と機能及び疾病 ・一般：30 時間	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 リハビリテーションの概要について理解する。 社会福祉士に必要な内容となるよう留意すること。	人の成長・発達 心身機能と身体構造の概要 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要 健康の捉え方 疾病と障害の概要 リハビリテーションの概要
心理学理論と心理的支援 ・一般：30 時間	心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。 人の成長・発達と心理との関係について理解する。 日常生活と心の健康との関係について理解する。 心理的支援の方法と実際について理解する。 社会福祉士に必要な内容となるよう留意すること。	人の心理学的理解 人の成長・発達と心理 日常生活と心の健康 心理的支援の方法と実際
社会理論と社会システム ・一般：30 時間	社会理論による現代社会の捉え方を理解する。 生活について理解する。 人と社会の関係について理解する。 社会問題について理解する。 社会福祉士に必要な内容となるよう留意すること。	現代社会の理解 生活の理解 人と社会の関係 社会問題の理解
現代社会と福祉 ・短期：60 時間	現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。	現代社会における福祉制度と福祉政策 福祉の原理をめぐる理論と哲学

<p>・一般：60 時間</p>	<p>福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 福祉政策の課題について理解する。 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。</p>	<p>福祉制度の発達過程 福祉政策におけるニーズと資源 福祉政策の課題 福祉政策の構成要素 福祉政策と関連政策 相談援助活動と福祉政策の関係</p>
<p>社会調査の基礎 ・一般：30 時間</p>	<p>社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。 統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。 量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。</p>	<p>社会調査の意義と目的 統計法 社会調査における倫理 社会調査における個人情報保護 量的調査の方法 質的調査の方法 社会調査の実施に当たっての IT の活用方法</p>
<p>相談援助の基盤と専門職 ・一般：60 時間</p>	<p>社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 相談援助の概念と範囲について理解する。 相談援助の理念について理解する。 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理</p>	<p>社会福祉士の役割と意義 精神保健福祉士の役割と意義 相談援助の概念と範囲 相談援助の理念 相談援助における権利擁護の意義 相談援助に係る専門職の概念と範囲 専門職倫理と倫理的ジレンマ</p>

	<p>解する。</p> <p>相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。</p> <p>総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。</p>	<p>総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチ含む）の意義と内容</p>
<p>相談援助の理論と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 短期：120 時間 ・ 一般：120 時間 	<p>相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。</p> <p>相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。</p> <p>相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）によるサービス利用計画についての理解を含む。）</p> <p>相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。</p> <p>相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解する。</p>	<p>人と環境の相互作用</p> <p>相談援助の対象</p> <p>様々な実践モデルとアプローチ</p> <p>相談援助の過程</p> <p>相談援助における援助関係</p> <p>相談援助のための面接技術</p> <p>ケースマネジメントとケアマネジメント</p> <p>アウトリーチ</p> <p>相談援助における社会資源の活用・調整・開発</p> <p>ネットワーキング（相談援助における多職種・多機関との連携を含む。）</p> <p>集団を活用した相談援助</p> <p>スーパービジョン</p> <p>記録</p> <p>相談援助と個人情報の保護の意義と留意点</p> <p>相談援助における情報通信技術（IT）の活用</p> <p>事例分析</p> <p>相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）</p>

<p>地域福祉の理論と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期：60 時間 ・一般：60 時間 	<p>地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。</p> <p>地域福祉の主体と対象について理解する。</p> <p>地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。</p> <p>地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。</p> <p>地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。</p>	<p>地域福祉の基本的考え方</p> <p>地域福祉の主体と対象</p> <p>地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民</p> <p>地域福祉の推進方法</p>
<p>福祉行財政と福祉計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般：30 時間 	<p>福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。</p> <p>福祉行財政の実際について理解する。</p> <p>福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。</p>	<p>福祉行政の実施体制</p> <p>福祉行財政の動向</p> <p>福祉計画の意義と目的</p> <p>福祉計画の主体と方法</p> <p>福祉計画の実際</p>
<p>福祉サービスの組織と経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般：30 時間 	<p>福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。</p> <p>福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について</p>	<p>福祉サービスに係る組織や団体</p> <p>福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論</p> <p>福祉サービス提供組織の経営と実際</p> <p>福祉サービスの管理運営の方法と実際</p>

	<p>理解する。</p> <p>福祉サービスの経営と管理運営について理解する。</p>	
<p>社会保障</p> <p>・一般：60 時間</p>	<p>現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。</p> <p>社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。</p> <p>公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。</p> <p>社会保障制度の体系と概要について理解する。</p> <p>年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。</p> <p>諸外国における社会保障制度の概要について理解する。</p>	<p>現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）</p> <p>社会保障の概念や対象及びその理念</p> <p>社会保障の財源と費用</p> <p>社会保険と社会扶助の関係</p> <p>公的保険制度と民間保険制度の関係</p> <p>社会保障制度の体系</p> <p>年金保険制度の具体的内容</p> <p>医療保険制度の具体的内容</p> <p>諸外国における社会保障制度の概要</p>
<p>高齢者に対する支援と介護保険制度</p> <p>・一般：60 時間</p>	<p>高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）について理解する。</p> <p>高齢者福祉制度の発展過程について理解する。</p> <p>介護の概念や対象及びその理念等について理解する。</p> <p>介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。</p> <p>終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）につい</p>	<p>高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）</p> <p>高齢者福祉制度の発展過程</p> <p>介護の概念や対象</p> <p>介護予防</p> <p>介護過程</p> <p>認知症ケア</p> <p>終末期ケア</p>

	<p>て理解する。</p> <p>相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。</p>	<p>介護と住環境</p> <p>介護保険法</p> <p>介護報酬</p> <p>介護保険法における組織及び団体の役割と実際</p> <p>介護保険法における専門職の役割と実際</p> <p>介護保険法におけるネットワークと実際</p> <p>地域包括支援センターの役割と実際</p> <p>老人福祉法</p> <p>高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）</p> <p>高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律</p> <p>高齢者の居住の安定確保に関する法律</p>
<p>障害者に対する支援と障害者自立支援制度</p> <p>一般：30 時間</p>	<p>障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解する。</p> <p>障害者福祉制度の発展過程について理解する。</p> <p>相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。</p>	<p>障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要</p> <p>障害者福祉制度の発展過程</p> <p>障害者総合支援法</p> <p>障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際</p> <p>障害者総合支援法における専門職の役割と実際</p> <p>障害者総合支援法における多職種連携、ネットワークと実際</p> <p>相談支援事業所の役割と実際</p>

		<p>身体障害者福祉法 知的障害者福祉法 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 発達障害者支援法 障害者基本法 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 障害者の雇用の促進等に関する法律</p>
<p>児童や家庭に対する支援と 児童・家庭福祉制度 一般：30 時間</p>	<p>児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む。）について理解する。 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。 児童の権利について理解する。 相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。</p>	<p>児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）、地域における子育て支援及び青少年育成の実態を含む。）と実際 児童・家庭福祉制度の発展過程 児童の定義と権利 児童福祉法 児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法） 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（D.V法） 母子及び寡婦福祉法 母子保健法 児童手当法</p>

		<p>児童扶養手当法 特別児童扶養手当等の支給に関する法律 次世代育成支援対策推進法 少子化社会対策基本法 売春防止法 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と 実際 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際 児童・家庭福祉制度における多職種連携、ネットワ ーキングと実際 児童相談所の役割と実際</p>
<p>低所得者に対する支援と生 活保護制度 ・一般：30 時間</p>	<p>低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、 福祉需要とその実際について理解する。 相談援助活動において必要となる生活保護制度や生 活保護制度に係る他の法制度について理解する。 自立支援プログラムの意義とその実際について理解 する。</p>	<p>低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、 福祉需要と実際 生活保護制度 生活保護制度における組織及び団体の役割と実際 生活保護制度における専門職の役割と実際 生活保護制度における多職種連携、ネットワーキン グと実際 福祉事務所の役割と実際 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策 低所得者へ住宅政策 ホームレス対策</p>

<p>保健医療サービス</p> <p>・一般：30 時間</p>	<p>相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む。）や保健医療サービスについて理解する。</p> <p>保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。</p>	<p>医療保険制度</p> <p>診療報酬</p> <p>保健医療サービスの概要</p> <p>保健医療サービスにおける専門職の役割と実際</p> <p>保健医療サービス関係者との連携と実際</p>
<p>就労支援サービス</p> <p>・一般：15 時間</p>	<p>相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。</p> <p>就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。</p> <p>就労支援分野との連携について理解する。</p>	<p>雇用・就労の動向と労働施策の概要</p> <p>就労支援制度の概要</p> <p>就労支援に係る組織、団体の役割と実際</p> <p>就労支援に係る専門職の役割と実際</p> <p>就労支援分野との連携と実際</p>
<p>権利擁護と成年後見制度</p> <p>・一般：30 時間</p>	<p>相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わりについて理解する。</p> <p>相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）について理解する。</p> <p>成年後見制度の実際について理解する。</p> <p>社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。</p>	<p>相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり</p> <p>成年後見制度</p> <p>日常生活自立支援事業</p> <p>成年後見制度利用支援事業</p> <p>権利養護に係る組織、団体の役割と実際</p> <p>権利擁護活動の実際</p>
<p>更生保護制度</p> <p>・一般：15 時間</p>	<p>相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。</p> <p>更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。</p> <p>刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り</p>	<p>更生保護制度の概要</p> <p>更生保護制度の担い手</p> <p>更生保護制度における関係機関・団体との連携</p> <p>医療観察制度の概要</p> <p>更生保護における近年の動向と課題</p>

	方について理解する。	
<p>相談援助演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期：150 時間 ・一般：150 時間 	<p>相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。</p> <p>個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。</p>	<p>以下の内容については相談援助実習を行う前に学習を開始し、十分な学習をしておくこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 自己覚知 イ 基本的なコミュニケーション技術の習得 ウ 基本的な面接技術の習得 エ 次に掲げる具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。 <ul style="list-style-type: none"> （ア）社会的排除 （イ）虐待（児童・高齢者） （ウ）家庭内暴力（D.V） （エ）低所得者 （オ）ホームレス （カ）その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。） オ エに掲げる事例等を題材として、次に掲げる具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行うこと。 <ul style="list-style-type: none"> （ア）インテーク （イ）アセスメント （ウ）プランニング （エ）支援の実施

		<p>(オ) モニタリング (カ) 効果測定 (キ) 終結とアフターケア</p> <p>カ オの実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含めること。</p> <p>(ア) アウトリーチ (イ) チームアプローチ (ウ) ネットワーキング (エ) 社会資源の活用・調整・開発</p> <p>キ 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、次に掲げる事項について実技指導を行うこと。</p> <p>(ア) 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 (イ) 地域福祉の計画 (ウ) ネットワーキング (エ) 社会資源の活用・調整・開発 (オ) サービスの評価</p> <p>相談援助実習後に行うこと。</p> <p>相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における生徒の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行うこと。</p>
相談援助実習指導	相談援助実習の意義について理解する。	次に掲げる事項について個別指導及び集団指導を行う

<ul style="list-style-type: none"> ・短期：90 時間 ・一般：90 時間 	<p>相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>	<p>ものとする。</p> <p>相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義</p> <p>実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解</p> <p>実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解</p> <p>現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。）</p> <p>実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解</p> <p>実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。）</p> <p>「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解</p> <p>実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成</p> <p>巡回指導</p> <p>実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成</p> <p>実習の評価全体総括会</p>
<p>相談援助実習</p>	<p>相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術</p>	<p>生徒は次に掲げる事項について実習指導者による指</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・短期：180 時間 ・一般：180 時間 	<p>について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。</p>	<p>導を受けるものとする。</p> <p>相談援助実習指導担当教員は巡回指導等を通して、次に掲げる事項について生徒及び実習指導者との連絡調整を密に行い、生徒の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</p> <p>ア 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</p> <p>ウ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成</p> <p>エ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価</p> <p>オ 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</p> <p>カ 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>キ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</p> <p>ク 当該実習先が地域社会の中の設・事業者・機関・</p>
--	---	--

		団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
--	--	---

備考

- 1 人体の構造と機能及び疾病、心理学理論と心理的支援、社会理論と社会システムについては、社会福祉士に必要な内容となるよう留意すること。
- 2 相談援助演習のねらいにおける「相談援助の知識と技術に係る科目」とは、主に「相談援助の基盤と専門職」、「相談援助の理論と方法」、「地域福祉の理論と方法」、「福祉行財政と福祉計画」、「福祉サービスの組織と経営」、「相談援助実習」、「相談援助実習指導」等の科目であること。

介護福祉士における教授内容

介護福祉士養成施設における教授内容

【第1号養成施設】

資格取得時の介護福祉士養成の目標	
	<ol style="list-style-type: none"> 1 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 2 あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 3 介護実践の根拠を理解する。 4 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。 5 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。 6 介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる。 7 他の職種の役割を理解し、チームに参画する意義を理解できる。 8 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。 9 円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける。 10 的確な記録・記述の方法を身につける。 11 人権擁護の視点、職業倫理を身につける。
領域	領域の目的
人間と社会	<ol style="list-style-type: none"> 1 介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。 2 利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。 3 アカウンタビリティ(説明責任)や根拠に基づく介護の実践のための、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を養う。 4 介護実践に必要な知識という観点から、介護保険や障害者総合支援法を中心に、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を養う。また、利用者の権利擁護の視点、職業倫理観を養う。

教育内容	ねらい	教育に含むべき事項
人間の尊厳と自立 (30時間以上)	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。	人間の尊厳と自立 介護における尊厳の保持・自立支援
人間関係とコミュニケーション (30時間以上)	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。	人間関係の形成 コミュニケーションの基礎
社会の理解 (60時間以上)	<p>個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。</p> <p>わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習とする。</p> <p>介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する学習とする。</p>	生活と福祉 社会保障制度 介護保険制度 障害者自立支援制度 介護実践に関連する諸制度
人間と社会に関する	以下の内容のうちから介護福祉士養成施設ごとに選択して、科目の内容及び時間を設定する。	

	<p>選択科目</p>	<p>生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習（科目例：生物、生命科学）</p> <p>数学と人間のかかわりや社会生活における数学の活用の理解と数学的・論理的思考の学習（科目例：統計、数学（基礎）、経理）</p> <p>家族・福祉、衣食住、消費生活等に関する基本的な知識と技術の学習（科目例：家庭、生活技術、生活文化）</p> <p>組織体のあり方、対人関係のあり方、（リーダーとなった場合の）人材育成のあり方についての学習（科目例：経営、教育）</p> <p>現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習（科目例：社会、現代社会、憲法論、政治・経済）</p> <p>その他の社会保障関連制度についての学習（科目例：労働法制、住宅政策、教育制度、児童福祉）</p>				
<p>介護</p>	<p>領域の目的</p>					
	<ol style="list-style-type: none"> 1 介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 2 自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。 3 利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。 4 多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。 5 リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。 					
	<p>教育内容</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="698 1002 1344 1054">ねらい</th> <th data-bbox="1344 1002 1989 1054">教育に含むべき事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="698 1054 1344 1342"> <p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。</p> </td> <td data-bbox="1344 1054 1989 1342"> <p>介護福祉士を取り巻く状況</p> <p>介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ</p> <p>尊厳を支える介護</p> <p>自立に向けた介護</p> <p>介護を必要とする人の理解</p> <p>介護サービス</p> </td> </tr> </tbody> </table>	ねらい	教育に含むべき事項	<p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。</p>	<p>介護福祉士を取り巻く状況</p> <p>介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ</p> <p>尊厳を支える介護</p> <p>自立に向けた介護</p> <p>介護を必要とする人の理解</p> <p>介護サービス</p>
ねらい	教育に含むべき事項					
<p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。</p>	<p>介護福祉士を取り巻く状況</p> <p>介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ</p> <p>尊厳を支える介護</p> <p>自立に向けた介護</p> <p>介護を必要とする人の理解</p> <p>介護サービス</p>					

			介護実践における連携 介護従事者の倫理 介護における安全の確保とリスクマネジメント 介護従事者の安全
コミュニケーション 技術 (60時間)	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。		介護におけるコミュニケーションの基本 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 介護におけるチームのコミュニケーション
生活支援技術 (300時間)	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。		生活支援 自立に向けた居住環境の整備 自立に向けた身じたくの介護 自立に向けた移動の介護 自立に向けた食事の介護 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 自立に向けた排泄の介護 自立に向けた家事の介護 自立に向けた睡眠の介護 終末期の介護
介護過程 (150時間)	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。		介護過程の意義 介護過程の展開 介護過程の実践的展開 介護過程とチームアプローチ

	介護総合演習 (120時間)	<p>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に生徒が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。</p>	
	介護実習 (450時間)	<p>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>	
<p>ここから のしくみ</p>	領域の目的		
	<p>1 介護実践に必要な知識という観点から、からだところのしくみについての知識を養う。</p> <p>2 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害等の分野で必要とされる心理的社会的なケアについての基礎的な知識を養う。</p>		
	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項
	<p>発達と老化の理解 (60時間)</p>	<p>発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的な知識を習得する学習とする。</p>	<p>人間の成長と発達の基礎的理解 老年期の発達と成熟 老化に伴うここからだの変化と日常生活 高齢者と健康</p>
	<p>認知症の理解 (60時間)</p>	<p>認知症に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p>	<p>認知症を取り巻く状況 医学的側面から見た認知症の基礎 認知症に伴うここからだの変化と日常生活 連携と協働</p>

			家族への支援
	障害の理解 (60時間)	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。	障害の基礎的理解 障害の医学的側面の基礎的知識 連携と協働 家族への支援
	こころとからだのしくみ (120時間)	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。	こころのしくみの理解 からだのしくみの理解 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 移動に関連したこころとからだのしくみ 食事に関連したこころとからだのしくみ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 排泄に関連したこころとからだのしくみ 睡眠に関連したこころとからだのしくみ 死にゆく人のこころとからだのしくみ
医療的ケア	領域の目的		
	医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。		
	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項
	医療的ケア (50時間以上)	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。	医療的ケア実施の基礎 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) 経管栄養(基礎的知識・実施手順) 演習

(注) 領域「医療的ケア」に関する留意事項

- ・ 「医療的ケア実施の基礎」から「経管栄養（基礎的知識・実施手順）」までについて 50 時間の教育を行うこととし、「演習」については 50 時間に含めないこと。
- ・ 「医療的ケア実施の基礎」では、関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握など、医療的ケアを安全・適切に実施する上で基礎となる内容とすること。
- ・ 「喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）」では、喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する内容とすること。
- ・ 「経管栄養（基礎的知識・実施手順）」では、経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する内容とすること。
- ・ 「演習」の回数は次のとおりとすること。
 - ア 喀痰吸引：口腔 5 回以上、鼻腔 5 回以上、気管カニューレ内部 5 回以上
 - イ 経管栄養：胃ろう又は腸ろう 5 回以上、経鼻経管栄養 5 回以上救急蘇生法演習（1 回以上）も併せて行うこと。

【第2号養成施設】

資格取得時の介護福祉士養成の目標			
1 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 2 あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 3 介護実践の根拠を理解する。 4 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。 5 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。 6 介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる。 7 他の職種の役割を理解し、チームに参画する意義を理解できる。 8 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。 9 円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける。 10 的確な記録・記述の方法を身につける。 11 人権擁護の視点、職業倫理を身につける。			
領域	領域の目的		
介護	1 介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 2 自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。 3 利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。 4 多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。 5 リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。		
	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項
	介護の基本 (180時間)	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、	介護福祉士を取り巻く状況 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ

		生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。	尊厳を支える介護 自立に向けた介護 介護を必要とする人の理解 介護サービス 介護実践における連携 介護従事者の倫理 介護における安全の確保とリスクマネジメント 介護従事者の安全
	コミュニケーション技術 (60時間)	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。	介護におけるコミュニケーションの基本 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 介護におけるチームのコミュニケーション
	生活支援技術 (300時間)	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。	生活支援 自立に向けた居住環境の整備 自立に向けた身じたくの介護 自立に向けた移動の介護 自立に向けた食事の介護 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 自立に向けた排泄の介護 自立に向けた家事の介護 自立に向けた睡眠の介護 終末期の介護

	介護過程 (150時間)	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。	介護過程の意義 介護過程の展開 介護過程の実践的展開 介護過程とチームアプローチ
	介護総合演習 (60時間)	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に生徒が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。	
	介護実習 (270時間)	社会福祉士養成課程等で学んだ内容を踏まえて、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。	
こころとからだのしくみ	領域の目的		
	1 介護実践に必要な知識という観点から、からだとこころのしくみについての知識を養う。 2 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害等の分野で必要とされる心理的社会的なケアについての基礎的な知識を養う。		
	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項
	発達と老化の理解 (30時間)	社会福祉士養成課程等で学んだ内容を踏まえて、発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得	人間の成長と発達の基礎的理解 老年期の発達と成熟 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活

		する学習とする。	高齢者と健康
認知症の理解 (30時間)		社会福祉士養成課程等で学んだ内容を踏まえて、認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。	認知症を取り巻く状況 医学的側面から見た認知症の基礎 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活 連携と協働 家族への支援
障害の理解 (30時間)		社会福祉士養成課程等で学んだ内容を踏まえて、障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。	障害の基礎的理解 障害の医学的側面の基礎的知識 連携と協働 家族への支援
こころとからだのしくみ (60時間)		社会福祉士養成課程等で学んだ内容を踏まえて、介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。	こころのしくみの理解 からだのしくみの理解 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 移動に関連したこころとからだのしくみ 食事に関連したこころとからだのしくみ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 排泄に関連したこころとからだのしくみ 睡眠に関連したこころとからだのしくみ 死にゆく人のこころとからだのしくみ
医療的ケア	領域の目的		
	医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。		

	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項
	医療的ケア (50 時間以上)	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。	医療的ケア実施の基礎 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) 経管栄養(基礎的知識・実施手順) 演習

(注) 領域「医療的ケア」に関する留意事項

- ・ 「医療的ケア実施の基礎」から「経管栄養(基礎的知識・実施手順)」までについて 50 時間の教育を行うこととし、「演習」については 50 時間に含めないこと。
- ・ 「医療的ケア実施の基礎」では、関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握など、医療的ケアを安全・適切に実施する上で基礎となる内容とすること。
- ・ 「喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)」では、喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する内容とすること。
- ・ 「経管栄養(基礎的知識・実施手順)」では、経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する内容とすること。
- ・ 「演習」の回数は次のとおりとすること。
 - ア 喀痰吸引：口腔 5 回以上、鼻腔 5 回以上、気管カニューレ内部 5 回以上
 - イ 経管栄養：胃ろう又は腸ろう 5 回以上、経鼻経管栄養 5 回以上
 救急蘇生法演習(1 回以上)も併せて行うこと。

【第3号養成施設】

資格取得時の介護福祉士養成の目標		
1 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 2 あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 3 介護実践の根拠を理解する。 4 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。 5 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。 6 介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる。 7 他の職種の役割を理解し、チームに参画する意義を理解できる。 8 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。 9 円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける。 10 的確な記録・記述の方法を身につける。 11 人権擁護の視点、職業倫理を身につける。		
領域	領域の目的	
人間と社会	1 介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。 2 利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。 3 アカウンタビリティ(説明責任)や根拠に基づく介護の実践のための、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を養う。 4 介護実践に必要な知識という観点から、介護保険や障害者総合支援法を中心に、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を養う。また、利用者の権利擁護の視点、職業倫理観を養う。	
	教育内容	ねらい

	<p>社会の理解 (15時間)</p>	<p>保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、個人が自立した生活を営むという理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。</p> <p>保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習とする。</p> <p>保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する学習とする。</p>	<p>生活と福祉 社会保障制度 介護保険制度 障害者自立支援制度 介護実践に関連する諸制度</p>
<p>介護</p>	<p>領域の目的</p>		
<ol style="list-style-type: none"> 1 介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 2 自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。 3 利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。 4 多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。 5 リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。 			

教育内容	ねらい	教育に含むべき事項
介護の基本 (180 時間)	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。	介護福祉士を取り巻く状況 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ 尊厳を支える介護 自立に向けた介護 介護を必要とする人の理解 介護サービス 介護実践における連携 介護従事者の倫理 介護における安全の確保とリスクマネジメント 介護従事者の安全
コミュニケーション 技術 (60 時間)	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。	介護におけるコミュニケーションの基本 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 介護におけるチームのコミュニケーション
生活支援技術 (300 時間)	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。	生活支援 自立に向けた居住環境の整備 自立に向けた身じたくの介護 自立に向けた移動の介護 自立に向けた食事の介護 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 自立に向けた排泄の介護

			自立に向けた家事の介護 自立に向けた睡眠の介護 終末期の介護
介護過程 (150時間)	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。		介護過程の意義 介護過程の展開 介護過程の実践的展開 介護過程とチームアプローチ
介護総合演習 (60時間)	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に生徒が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。		
介護実習 (210時間)	保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。		
ところとから だのしくみ	領域の目的		
	1 介護実践に必要な知識という観点から、からだところのしくみについての知識を養う。 2 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害等の分野で必要とされる心理的社会的なケアについての基礎的な知識を養う。		
教育内容	ねらい	教育に含むべき事項	

<p>発達と老化の理解 (30時間)</p>	<p>保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。</p>	<p>人間の成長と発達の基礎的理解 老年期の発達と成熟 老化に伴うこととからだの変化と日常生活 高齢者と健康</p>
<p>認知症の理解 (60時間)</p>	<p>認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p>	<p>認知症を取り巻く状況 医学的側面から見た認知症の基礎 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活 連携と協働 家族への支援</p>
<p>障害の理解 (30時間)</p>	<p>保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p>	<p>障害の基礎的理解 障害の医学的側面の基礎的知識 連携と協働 家族への支援</p>
<p>こととからだのしくみ (60時間)</p>	<p>保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p>	<p>こととからだのしくみの理解 からだのしくみの理解 身じたくに関連したこととからだのしくみ 移動に関連したこととからだのしくみ 食事に関連したこととからだのしくみ 入浴、清潔保持に関連したこととからだのしくみ 排泄に関連したこととからだのしくみ 睡眠に関連したこととからだのしくみ</p>

			死にゆく人のこころとからだのしくみ
医療的ケア	領域の目的		
	医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。		
	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項
	医療的ケア (50時間以上)	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。	医療的ケア実施の基礎 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) 経管栄養(基礎的知識・実施手順) 演習

(注) 領域「医療的ケア」に関する留意事項

- ・ 「医療的ケア実施の基礎」から「経管栄養(基礎的知識・実施手順)」までについて50時間の教育を行うこととし、「演習」については50時間を含めないこと。
- ・ 「医療的ケア実施の基礎」では、関連する法制度や倫理、関連職種との役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握など、医療的ケアを安全・適切に実施する上で基礎となる内容とすること。
- ・ 「喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)」では、喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する内容とすること。
- ・ 「経管栄養(基礎的知識・実施手順)」では、経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する内容とすること。
- ・ 「演習」の回数は次のとおりとすること。
 - ア 喀痰吸引：口腔5回以上、鼻腔5回以上、気管カニューレ内部5回以上
 - イ 経管栄養：胃ろう又は腸ろう5回以上、経鼻経管栄養5回以上
 救急蘇生法演習(1回以上)も併せて行うこと。

精神保健福祉士における教授内容

精神保健福祉士養成施設における教授内容

科目名	教授内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
人体の構造と機能及び疾病 ・一般：30 時間	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 リハビリテーションの概要について理解する。 精神保健福祉士に必要な内容となるよう留意すること。	人の成長・発達 心身機能と身体構造の概要 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要 健康の捉え方 疾病と障害の概要 リハビリテーションの概要
心理学理論と心理的支援 ・一般：30 時間	心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。 人の成長・発達と心理との関係について理解する。 日常生活と心の健康との関係について理解する。 心理的支援の方法と実際について理解する。 精神保健福祉士に必要な内容となるよう留意すること。	人の心理学的理解 人の成長・発達と心理 日常生活と心の健康 心理的支援の方法と実際
社会理論と社会システム ・一般：30 時間	社会理論による現代社会の捉え方を理解する。 生活について理解する。 人と社会の関係について理解する。 社会問題について理解する。 精神保健福祉士に必要な内容となるよう留意する	現代社会の理解 生活の理解 人と社会の関係 社会問題の理解

<p>現代社会と福祉</p> <p>・一般：60 時間</p>	<p>こと。</p> <p>現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。</p> <p>福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。</p> <p>福祉政策におけるニーズと資源について理解する。</p> <p>福祉政策の課題について理解する。</p> <p>福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。</p> <p>福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。</p> <p>相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。</p>	<p>現代社会における福祉制度と福祉政策</p> <p>福祉の原理をめぐる理論と哲学</p> <p>福祉制度の発達過程</p> <p>福祉政策におけるニーズと資源</p> <p>福祉政策の課題</p> <p>福祉政策の構成要素</p> <p>福祉政策と関連政策</p> <p>相談援助活動と福祉政策の関係</p>
<p>地域福祉の理論と方法</p> <p>・一般：60 時間</p>	<p>地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。</p> <p>地域福祉の主体と対象について理解する。</p> <p>地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。</p> <p>地域福祉におけるネットワーク（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。</p> <p>地域福祉の推進方法（ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域ト</p>	<p>地域福祉の基本的考え方</p> <p>地域福祉の主体と対象</p> <p>地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民</p> <p>地域福祉の推進方法</p>

	<p>ータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。)について理解する。</p>	
<p>社会保障 ・一般：60 時間</p>	<p>現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。</p> <p>社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。</p> <p>公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。</p> <p>社会保障制度の体系と概要について理解する。</p> <p>年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。</p> <p>諸外国における社会保障制度の概要について理解する。</p>	<p>現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）</p> <p>社会保障の概念や対象及びその理念</p> <p>社会保障の財源と費用</p> <p>社会保険と社会扶助の関係</p> <p>公的保険制度と民間保険制度の関係</p> <p>社会保障制度の体系</p> <p>年金保険制度の具体的内容</p> <p>医療保険制度の具体的内容</p> <p>諸外国における社会保障制度の概要</p>
<p>低所得者に対する支援と生活保護制度 ・一般：30 時間</p>	<p>低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。</p> <p>相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。</p> <p>自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。</p>	<p>低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際</p> <p>生活保護制度</p> <p>生活保護制度における組織及び団体の役割と実際</p> <p>生活保護制度における専門職の役割と実際</p> <p>生活保護制度における多職種連携、ネットワークと実際</p> <p>福祉事務所の役割と実際</p> <p>自立支援プログラムの意義と実際</p>

		低所得者対策 低所得者へ住宅政策 ホームレス対策
福祉行財政と福祉計画 ・一般：30 時間	福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。 福祉行財政の実際について理解する。 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。	福祉行政の実施体制 福祉行財政の動向 福祉計画の意義と目的 福祉計画の主体と方法 福祉計画の実際
保健医療サービス ・一般：30 時間	相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む。）や保健医療サービスについて理解する。 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。	医療保険制度 診療報酬 保健医療サービスの概要 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際 保健医療サービス関係者との連携と実際
権利擁護と成年後見制度 ・一般：30 時間	相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わりについて理解する。 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）について理解する。 成年後見制度の実際について理解する。 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。	相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり 成年後見制度 日常生活自立支援事業 成年後見制度利用支援事業 権利養護に係る組織、団体の役割と実際 権利擁護活動の実際
障害者に対する支援と障害	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福

<p>者自立支援制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般：30 時間 	<p>祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解する。</p> <p>障害者福祉制度の発展過程について理解する。</p> <p>相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。</p>	<p>祉・介護需要</p> <p>障害者福祉制度の発展過程</p> <p>障害者総合支援法</p> <p>障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際</p> <p>障害者総合支援法における専門職の役割と実際</p> <p>障害者総合支援法における多職種連携、ネットワーキングと実際</p> <p>相談支援事業所の役割と実際</p> <p>身体障害者福祉法</p> <p>知的障害者福祉法</p> <p>精神保健及び精神障害者福祉に関する法律</p> <p>発達障害者支援法</p> <p>障害者基本法</p> <p>心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律</p> <p>高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律</p> <p>障害者の雇用の促進等に関する法律</p>
<p>精神疾患とその治療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期：60 時間 ・一般：60 時間 	<p>代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。</p> <p>精神科病院等における専門治療の内容及び特性につ</p>	<p>精神疾患総論（代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）</p> <p>精神疾患の治療</p>

	<p>いて理解する。</p> <p>精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。</p> <p>精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。</p>	<p>精神科医療機関の治療構造及び専門病棟</p> <p>精神科治療における人権擁護</p> <p>精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割</p> <p>精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性</p>
<p>精神保健の課題と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 短期：60 時間 ・ 一般：60 時間 	<p>精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。</p> <p>現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。</p> <p>国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。</p>	<p>精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要</p> <p>精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ</p> <p>精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ</p> <p>精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ</p> <p>精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ</p> <p>精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割</p> <p>地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題</p> <p>精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携</p> <p>諸外国の精神保健活動の現状及び対策</p>
<p>精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般：30 時間 	<p>精神保健福祉士の役割（総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む。）と意義について理解する。</p> <p>社会福祉士の役割と意義について理解する。</p> <p>相談援助の概念と範囲について理解する。</p>	<p>精神保健福祉士の役割と意義</p> <p>社会福祉士の役割と意義</p> <p>相談援助の概念と範囲</p> <p>相談援助の理念</p>

	相談援助の理念について理解する。	
<p>精神保健福祉相談援助の基盤（専門）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期：30 時間 ・一般：30 時間 	<p>精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。</p> <p>精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。</p> <p>精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。</p> <p>精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。</p>	<p>精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方</p> <p>相談援助に係わる専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲</p> <p>精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲</p> <p>精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む。）の意義と内容</p>
<p>精神保健福祉の理論と相談援助の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期：120 時間 ・一般：120 時間 	<p>精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。</p> <p>精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用の方法について理解する。</p> <p>精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について理解する。</p> <p>精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連</p>	<p>精神保健医療福祉の歴史と動向</p> <p>精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識</p> <p>精神科リハビリテーションの概念と構成</p> <p>精神科リハビリテーションのプロセス</p> <p>医療機関における精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割</p> <p>精神障害者の支援モデル</p> <p>相談援助の過程及び対象者との援助関係</p> <p>相談援助活動のための面接 技術</p> <p>相談援助活動の展開（医療施設、社会復帰施設、地域社会を含む。）</p> <p>家族調整・支援の実際と事例分析</p>

	<p>携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。</p> <p>精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。</p> <p>地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む。）の実際について理解する。</p> <p>地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する。</p>	<p>スーパービジョンとコンサルテーション</p> <p>地域移行の対象及び支援体制</p> <p>地域を基盤にした相談援助の主体と対象（精神障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む。）</p> <p>地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方</p> <p>精神障害者のケアマネジメント</p> <p>地域を基盤にした支援とネットワークング</p> <p>地域生活を支援する包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開</p>
<p>精神保健福祉に関する制度とサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期：60 時間 ・一般：60 時間 	<p>精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。</p> <p>精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。</p> <p>精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。</p> <p>更生保護制度と医療観察法について理解する。</p> <p>社会資源の調整・開発に係る社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。</p>	<p>精神保健福祉法の意義と内容</p> <p>精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス</p> <p>精神障害者に関連する社会保障制度の概要</p> <p>相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働</p> <p>更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係</p> <p>更生保護制度における関係機関や団体との連携</p> <p>医療観察法の概要</p> <p>医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割</p> <p>社会資源の調整・開発に係る社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用</p>

<p>精神障害者の生活支援システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期：30 時間 ・一般：30 時間 	<p>精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。</p> <p>精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。</p> <p>職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む。）について理解する。</p> <p>行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。</p>	<p>精神障害者の概念</p> <p>精神障害者の生活の実際</p> <p>精神障害者の生活と人権</p> <p>精神障害者の居住支援</p> <p>精神障害者の就労支援</p> <p>精神障害者の生活支援システム</p> <p>市町村における相談援助</p> <p>その他の行政機関における相談援助</p>
<p>精神保健福祉援助演習（基礎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般：30 時間 	<p>精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いること。</p> <p>個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的にとりあげること。</p>	<p>以下の内容については、精神保健福祉援助実習を行う前に学習を開始し、十分な学習をしておくこと。</p> <p>ア 自己覚知</p> <p>イ 基本的なコミュニケーション技術の習得</p> <p>ウ 基本的な面接技術の習得</p> <p>エ グループダイナミクス活用技術の習得</p> <p>オ 情報の収集・整理・伝達の技術の習得</p> <p>カ 課題の発見・分析・解決の技術の習得</p> <p>キ 記録の技術の習得</p> <p>ク 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 ・ 地域アセスメント ・ 地域福祉の計画 ・ ネットワーキング

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会資源の活用・調整・開発 ・ サービス評価
<p>精神保健福祉援助演習（専門）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 短期：60 時間 ・ 一般：60 時間 	<p>精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。</p> <p>個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。</p>	<p>以下の内容については、精神保健福祉援助実習を行う前に学習を開始し、十分な学習をしておくこと。</p> <p>ア 次に掲げる具体的な課題別の精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む。）を活用し、実現に向けた精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的排除 ・ 退院支援、地域移行、地域生活継続 ・ ピアサポート ・ 地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等） ・ 教育、就労（雇用） ・ 貧困、低所得、ホームレス ・ 精神科リハビリテーション ・ その他の危機状態にある精神保健福祉 <p>イ アに掲げる事例を題材として、次に掲げる具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インテーク（受理面接） ・ 契約

		<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメント（課題分析） ・ プランニング（支援の計画） ・ 支援の実施 ・ モニタリング（経過観察） ・ 効果測定と支援の評価 ・ 終結とアフターケア <p>ウ イの実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アウトリーチ ・ ケアマネジメント ・ チームアプローチ ・ ネットワーキング ・ 社会資源の活用・調整・開発 <p>精神保健福祉援助実習後に行うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、精神保健福祉援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行うこと。
<p>精神保健福祉援助実習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 短期：90 時間 ・ 一般：90 時間 	<p>精神保健福祉援助実習の意義について理解する。</p> <p>精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。</p> <p>精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導</p>	<p>次に掲げる事項について個別指導及び集団指導</p> <p>ア 精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義</p> <p>イ 精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関</p>

	<p>を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>	<p>する基本的な理解</p> <p>ウ 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解</p> <p>エ 現場体験学習及び見学実習</p> <p>オ 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解</p> <p>カ 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解</p> <p>キ 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む。）</p> <p>ク 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解</p> <p>ケ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成</p> <p>コ 巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）</p> <p>サ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成</p> <p>シ 実習の評価全体総括会</p>
<p>精神保健福祉援助実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期：210 時間 ・一般：210 時間 	<p>精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおか</p>	<p>精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>ア 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談</p>

	<p>れている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。</p> <p>精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>	<p>援助</p> <p>イ 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助</p> <p>ウ 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助</p> <p>精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>ア 治療中の患者及びその家族への相談援助</p> <p>イ 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助</p> <p>ウ 地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助</p> <p>学生は、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。</p> <p>ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</p> <p>ウ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成</p>
--	--	--

		<p>エ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価</p> <p>オ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</p> <p>カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</p> <p>キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</p> <p>ケ 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>精神保健福祉援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</p>
--	--	---